
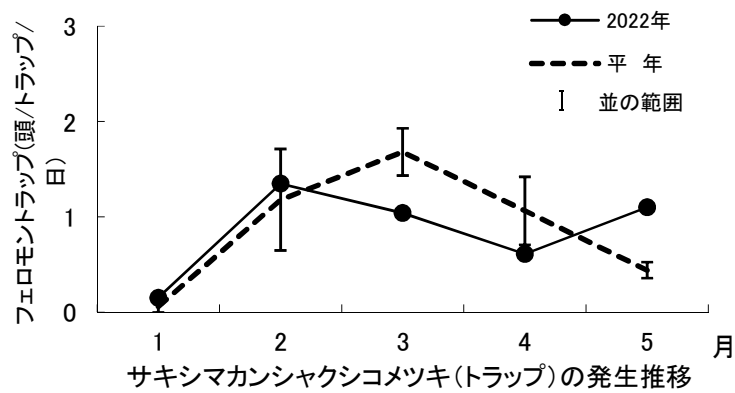


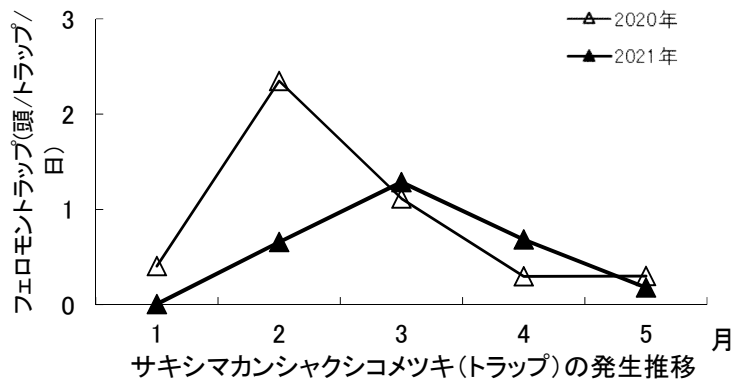
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	カンシャクシコメツキ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	多	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移




防除のポイント

- ・ 成虫は2月上旬～4月上旬頃から地上に出てくる。
- ・ 発生が多い地域では連作を避ける。
- ・ 植付前に植溝に粒剤を施用する。

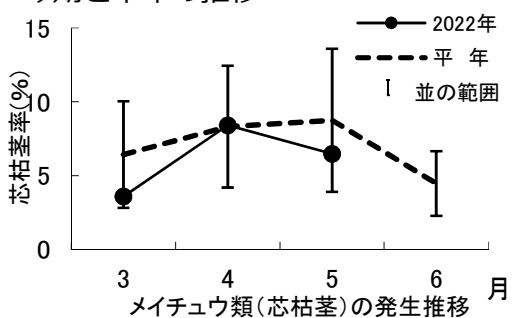


カンシャクシコメツキ類(成虫)

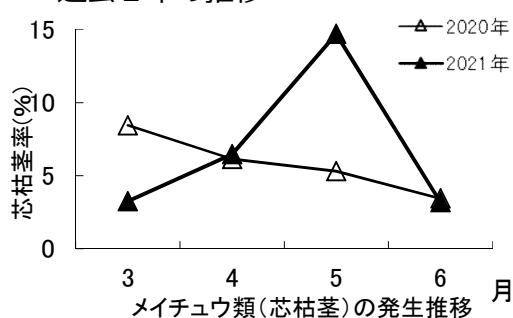
作物	さとうきび	地域	八重山群島	
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)			並
予報	5 月からの増減傾向			↓
		6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

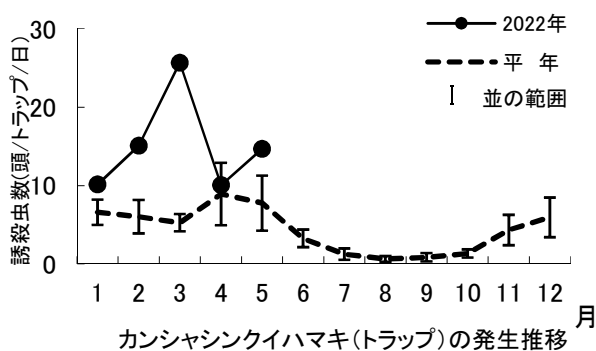
今期と平年の推移



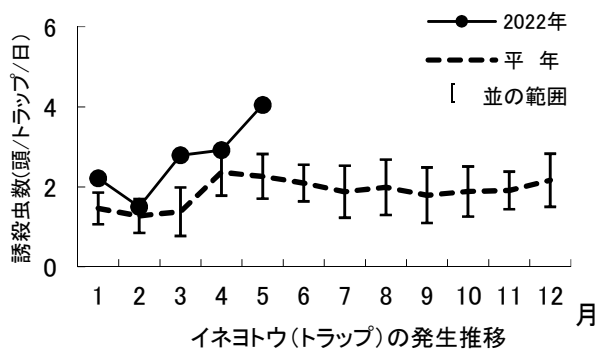
過去 2 年の推移



トラップ調査 (カンシャシクイハマキ)



トラップ調査 (イネヨトウ)



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：94% (平年値：93%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、92% (23/25頭) がカンシャシクイハマキ、8% (2/25頭) がイネヨトウであった。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。